教材分析シート

(5)年(月)組 授業者(田中 美帆)

教材名

手品師 (文溪堂)

内容項目

正直, 誠実 A (2)

ねらい

葛藤の末に、男の子との約束を守ることを優先し、次々と素晴らしい手品を演じた手品師の姿を通して、いつも誠実に、明るい心をもって生活しようとする道徳的心情を育てる。

① 主人公

(道徳的に最も大きく変容した人物)

手品師

② 助言者

(主人公の変化に重要なヒントを与える人・モノ)

男の子との約束

③ 場面分け (主人公を主語にして分ける)

Before (道徳的な変化前)	手品師は、軽い気持ちで男の子と明日の約束をした。
助言者の登場	手品師は、友人から大劇場への出演依頼を受けるが、男の子との約束を思い出して葛藤した。
転 (道徳的変化) After (変化後)	手品師は、男の子との約束を優先し、素晴らしい手品を演じた。

④ 一文読み (要約)

長年、大劇場に立つことを夢見てきた手品師が、小さな男の子と出会い、葛藤の末に大劇場に立つチャンスよりも男の子との約束を優先し、男の子の前で次々とすばらしい手品を演じる話。

⑤ 発問 (3種類の質問)

Before の発問 (道徳的問題を明らかにする)	→内容理解の発問「主人公の道徳的問題は何か？」 手品師はどんなことで迷ったのでしょうか。
「転」又は After の発問 (主人公の気づきに迫る)	→中心発問「主人公は何に気づいたのか？」 手品師はどうして男の子との約束を選んだのでしょうか。
補助発問 (あれば)	男の子の前で次々とすばらしい手品を演じることができたのはなぜでしょう。
価値追求の発問 (道徳的価値をおさえる) (テーマにかかわる発問)	→おさへの発問(「〇〇って何だろう?」、手紙、ふり返り等) 手品師は何を大切にしてどんな生き方をしたのでしょうか。